

専攻科 研究院コース 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習（前期）	34	2	1
実習	分野別実習（後期）	34	2	1
演習	研究ゼミナール基礎	68	2	4
演習	研究ゼミナール応用	68	2	4
演習	研究ゼミナール発展	68	2	4
演習	共同演習	68	2	4
実習	サウンドアナライズ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎	68	2	4
演習	アンサンブル応用	68	2	4
実習	演奏/ダンス分野別基礎	68	2	2
実習	歌唱/演奏基礎技術	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技	68	2	2
講義	音楽理論/調音	68	2	4
合計		884	28	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	研究ゼミナール基礎		授業形態 / 必選	演習	必修		
	学則別表上表記	研究ゼミナール基礎	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■専攻科 研究院コース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。						
授業概要							
コード(和音)について理論的に学び、様々なコードやリズムパターンを学ぶ。また鍵盤楽器への造詣を深めることにより音楽全般への理解を音感・聴音などの観点からもその向上をはかる。							
到達目標							
・キーボードに触ることに慣れ、コードネームだけで鍵盤で伴奏できるようになる。							
・簡単なフレーズ類例をもとに左手で低音、右手で主旋律を奏でられるようにトレーニングを実施し、両手で楽曲を演奏できるようにする。							
・楽曲を一度聞いた後、初見でコード譜を演奏できるようにする。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	鍵盤の位置を覚えてドレミを弾いてみよう(運指) 【理論】スケール (Major, minor) コードについて (Major, minor) 【理論】コードの構成を覚えたら、弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 4～7回目	【実践】左手を使ってみよう 猫踏んじやった 【理論】曲を弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 8～10回目	【実践】曲を弾いてみよう (C G Em Am D B Bm) 【上を向いて歩こう】 【理論】おしゃれコードについて (トライアド、7th、sus4など) 【実践】上を向いて歩こう Bメロ込み
【前期】 11～13回目	【課題曲】上を向いて歩こう・Lemon
【前期】 14～17回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう
【後期】 21～24回目	【課題曲】コード譜をもとにサイズ譜を作ってみよう(小節の数え方、繰り返し記号の書き方など、基本的な採譜に必要な知識の習得)
【後期】 25～27回目	【自由曲】好きな曲を、サイズ譜を作成しメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 28～30回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 31～34回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	キーボードを演奏するには、まずキーの概念や和音の構成など簡単な音楽理論を理解することが必要です。また、左手ではベースラインでリズム感を出し、右手で和音を出していきます。最初は左右違う動きをすることやコードを覚え瞬時に和音を抑えるのに手こずるかもしれませんが、いつのコードだけで弾ける簡単な曲から始めていきますので安心してください。コード譜があれば伴奏できる・弾き語りができるレベルまで頑張りましょう。
備考	参考書「ピアノコード表」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	研究ゼミナール応用		授業形態 / 必選	演習	必修	
	学則別表上表記	研究ゼミナール応用	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■専攻科 研究院コース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
多くの難易度の高い楽曲(GOSPEL・ミュージカル楽曲・POPS等)を通し、心の解放・ハーモニーへの理解、発声や歌唱法を学ぶ。 時にはリードボーカルのオーディションを行い、生徒同士で競争することによる技術向上を目的とする。 授業の動画撮影や音源準備のお手伝いなど、講師側のお手伝いをする事で現場を俯瞰し捉える事も出来る視野と感覚を養う。						
到達目標						
・大人数の中で歌うために必要な知識や技術の習得。ハーモニー(ハモリ)を作ることの技術習得。						
・グループの一員としてステージに立ち、時にはchoirとして、時にはリードボーカルとしての歌唱法や立ち振る舞い、パフォーマンスを学ぶ。						
・ハモることへの不安がなくなる。						
・心を解放させ身体全体を使ってステージパフォーマンスができる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	パート分け(女子2パート、男子2パート) 1曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 4～7回目	2曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 8～10回目	3曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 11～13回目	4曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 14～17回目	前期まとめ (1～4曲目の復習) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 21～24回目	6曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 25～27回目	7曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 28～30回目	8曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 31～34回目	過去にやった曲の中からLIVE WEEKに向けて選曲、復習、パフォーマンス込みで練習 ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学ぶきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	研究ゼミナール発展		授業形態 / 必選	演習	必修	
	学則別表上表記	研究ゼミナール発展	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■専攻科 研究院コース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	YAMAHAポピュラーミュージックコンテストボーカル部門優勝経験を持ち、1999年よりアーティスト活動開始。 歌手としてデビューし4枚のCDをリリースしている。 黒人霊歌、ソウル、R&B、ジャズなど、アメリカンブラックミュージック中心に現在もライブ活動をしている。 様々なジャンルの音楽に携わってきたヴォーカリストとしての活動経験を活かした講義内容となっている。					
授業概要						
・自身の到達目標に向けて、担当講師によるマンツーマン指導を行います。						
・毎回の授業では、前回の振り返りや反省点、今後に向けた改善案を講師と話し合い、都度内容に反映していきます。						
到達目標						
・歌唱力/表現力の更なる発展						
・鍵盤演奏技術の発展						
・歌唱と鍵盤演奏を統合し弾語りのスタイルでの歌唱表現を身に着ける						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	弾語り用課題楽曲の選定、前期期間の授業計画確認 歌唱指導(発声・楽曲歌唱)/演奏指導(弾語りする上での演奏方法)
【前期】 4～7回目	前期課題選定楽曲の歌唱指導(発声・楽曲歌唱)/演奏指導(弾語りする上での演奏方法)
【前期】 8～10回目	前期課題選定楽曲の歌唱指導(歌唱表現力)/演奏指導(鍵盤でのバックিং演奏法)
【前期】 11～13回目	前期課題選定楽曲の弾語り演奏実践
【前期】 14～17回目	前期まとめ (選定楽曲の復習) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / 演奏技術 / パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	弾語り用課題楽曲の選定、後期期間の授業計画確認 歌唱指導(発声・楽曲歌唱)/演奏指導(弾語りする上での演奏方法)
【後期】 21～24回目	後期課題選定楽曲の歌唱指導(発声・楽曲歌唱)/演奏指導(弾語りする上での演奏方法)
【後期】 25～27回目	後期課題選定楽曲の歌唱指導(歌唱表現力)/演奏指導(鍵盤でのバックিং演奏法)
【後期】 28～30回目	後期課題選定楽曲の弾語り演奏実践
【後期】 31～34回目	後期まとめ (選定楽曲の復習) ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / 演奏技術 / パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / 演奏技術 / パフォーマンス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	これまでの授業で培ってきた歌唱表現力を基に、さらに聴き手を意識した高度な表現力を身につけていきます。 プロ現場でのパフォーマンスを想定し指導していくので、一回一回の授業を大切に取り組んでいきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドメイキング		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	共同演習	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■専攻科 研究院コース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	ギタリストとしてメジャー、インディーズ、アイドル等 様々なジャンルのレコーディングやライブへ参加。 Mega Shinnosuke, 平山カンタロウ, LinQ, 浅野孝巳(ゴダイゴ), 岩佐一成 etc... 自身の作曲した楽曲が全国区オーディションイベントにてグランプリを受賞。 その他楽曲もTV番組テーマソングや映画挿入歌に起用される。					
授業概要						
楽器機材への知識を深め、聴音力を身に付ける為の授業を行う。						
到達目標						
・ミュージシャンとして”自分を表現し易い音色”を作り上げる。						
・多様なジャンルに対応する為の知識・聴音力を身に付ける。						
・現場でのトラブルへの対処法を身に付ける。						
・”音作りの上手さはスピードの早さ”迅速で正確なセッティングを身に付ける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	校内の機材を利用し、まずはトラブルの起こらない使用法を学ぶ。
【前期】 4～7回目	自身の使用する楽器への理解を深め、即戦力となるセッティングを学ぶ。
【前期】 8～10回目	現代音楽において必須となる主要なエフェクト群に触れ、その必要性を理解する。
【前期】 11～13回目	楽曲内のシチュエーションによって使い分ける音色・その理由を明確化する。
【前期】 14～17回目	【テスト内容】定められた時間内での全ての機材のセッティングを実演・トラブル対処への内容理解度をチェックする。
【後期】 18～20回目	ギターシェイプによる音色の違いに着目し、聴き分ける技能を習得する。
【後期】 21～24回目	レコーディング等で理想の出音を得る為、楽曲毎に使用するギターシェイプをセレクトする感覚を養う。
【後期】 25～27回目	レコーディング等で理想の出音を得る為、楽曲毎に使用するアンプをセレクトする感覚を養う。
【後期】 28～30回目	自身の理想の弾き心地を追求しつつ、トラブルの原因となる事の多いケーブル・電源周りへの知識を深める。
【後期】 31～34回目	【テスト内容】聴音による楽器の聴き分けと知識の理解度を確かめる。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽器関連知識/聴音力」の項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	サウンドメイクはTPOに合わせたお化粧の様な物です。 演じる楽曲の魅力を最大限に再現し、リスナーへ届ける事の出来るミュージシャンを目指していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	フレットボード&スケール		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 専攻科 研究院コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。				
授業概要					
スケール、コードトーンの理解と、指板との紐付けを理解する。					
到達目標					
・机上で学んだ理論を実際の演奏に活かすために、楽器で確認し応用できる力を身につける。					
・コード譜を見ての様々な解釈ができるようになる。					
・コード譜のみで演奏できる技術を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ポジションプレイの考え方 メジャースケール、マイナースケール。音程について。指板上の音の配置。
【前期】 4～7回目	三和音の説明、メジャーコードマイナーコードについて。ダイアトニックトライアド。
【前期】 8～10回目	四和音の説明。セブンスコード、ダイアトニック。セブンスコードのアルペジオ。
【前期】 11～13回目	マイナーキーのダイアトニックについてマイナーキーのダイアトニックコードのアルペジオ。
【前期】 14～17回目	ダイアトニック コード進行、コードのファンクションについて。 ■前期試験：課題曲の演奏にて「技量 / 理解度」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ブルース進行、セブンスコードを使ったブルージーなコード、ジャズブルースのコード。
【後期】 21～24回目	ノンダイアトニックコードについて。モーダルインターチェンジ、セカンダリドミナントなど。
【後期】 25～27回目	キーセンター及び転調について。
【後期】 28～30回目	その他のスケール、応用。考え方、トレーニング。
【後期】 31～34回目	コードとそれに関連したスケールについて。 ■後期試験：課題曲の演奏にて「技量 / 理解度」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「技量 / 理解度」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論を実際の演奏に活かすために、楽器で確認し応用できる力を身につけることを目的としています。 この技術を習得すると、ただ単に楽曲をコピーするだけでなく、自分でアレンジできるようになります。 また、オリジナル楽曲の制作にも必ず役に立つはずです。
備考	使用教科書「フレットボード1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル基礎		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 専攻科 研究院コース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	ギタリストとしてメジャー、インディーズ、アイドル等 様々なジャンルのレコーディングやライブへ参加。 Mega Shinnosuke, 平山カンタロウ, LinQ, 浅野孝巳(ゴダイゴ), 岩佐一成 etc... 自身の作曲した楽曲が全国区オーディションイベントにてグランプリを受賞。 その他楽曲もTV番組テーマソングや映画挿入歌に起用される。					
授業概要						
課題曲を用いて、バンドアンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスを実現するためのメソッドを学ぶ。 これまで培ったステージでの表現力を演奏にも反映させる。						
到達目標						
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。 ・シチュエーションに応じた適切な演奏とふるまいを身につける。 ・本番ステージに向けた意味のあるバンドリハーサル方法を理解する。 ・自身の演奏のみに集中することなく、全体の演奏状態をリアルタイムで把握しながら最善のアンサンブルを作ることができる。 ・観客やステージを意識した演奏状態を作り、本番ステージに直結したアンサンブルを行うことができる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	バンドアンサンブルでの演奏に慣れ、自身の担当楽器の役割を理解する
【前期】 4～7回目	リズムやタイムを音楽的にコントロールし、休符をしっかりと意識したリズムワークを身に着ける
【前期】 8～10回目	ステージでライブをしていることをしっかり認識し観客をイメージした演奏を心がける。周りのパートをよく確認し、統一感のあるアンサンブルを目指す。
【前期】 11～13回目	ワイルドさ、ファジーさを伴いながらも整った演奏を目指す。音価を意識した演奏を学ぶ。
【前期】 14～17回目	ここまでの課題曲で学んだことを全て取り入れ、理想的な演奏を目指す。 ■前期試験:課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音作りをアンサンブルの重要な一要素として捉え、適切な機材セッティングを分析する。
【後期】 21～24回目	自身の担当楽器以外のサウンドの質を理解し、総合的なアンサンブルをイメージし演奏力の向上をはかる。
【後期】 25～27回目	タイムやダイナミクスを意識し、有機的で生き活きとした演奏を目指す。
【後期】 28～30回目	演奏クオリティを保ちながらステージングなどのパフォーマンスも意識し、聴衆に何を届けたいかを考えたライブアンサンブルを目指す。
【後期】 31～34回目	年間総合復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルとは、単純に各楽器が集まって好きに音を出し合った結果ではなく、もっと綿密で計画的に混ざり合っており、そこにダイナミクスやストーリーが存在します。自身のアンサンブルのイメージをより高め、それらをステージ上で観客に思い通りに届けるための実践方法を磨きましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 専攻科 研究院コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	ギタリストとしてメジャー、インディーズ、アイドル等 様々なジャンルのレコーディングやライブへ参加。 Mega Shinnosuke, 平山カンタロウ, LinQ, 浅野孝巳(ゴダイゴ), 岩佐一成 etc... 自身の作曲した楽曲が全国区オーディションイベントにてグランプリを受賞。 その他楽曲もTV番組テーマソングや映画挿入歌に起用される。				
授業概要					
課題曲を用いて、バンドアンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスを実現するためのメソッドを学ぶ。 これまで培ったステージでの表現力を演奏にも反映させる。 ※アンサンブル基礎の二コマ目として実施					
到達目標					
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。					
・シチュエーションに応じた適切な演奏とふるまいを身につける。					
・本番ステージに向けた意味のあるバンドリハーサル方法を理解する。					
・自身の演奏のみに集中することなく、全体の演奏状態をリアルタイムで把握しながら最善のアンサンブルを作ることができる。					
・観客やステージを意識した演奏状態を作り、本番ステージに直結したアンサンブルを行うことができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	バンドアンサンブルでの演奏に慣れ、自身の担当楽器の役割を理解する
【前期】 4～7回目	リズムやタイムを音楽的にコントロールし、休符をしっかりと意識したリズムワークを身に着ける
【前期】 8～10回目	ステージでライブをしていることをしっかり認識し観客をイメージした演奏を心がける。周りのパートをよく確認し、統一感のあるアンサンブルを目指す。
【前期】 11～13回目	ワイルドさ、ファジーさを伴いながらも整った演奏を目指す。音価を意識した演奏を学ぶ。
【前期】 14～17回目	ここまでの課題曲で学んだことを全て取り入れ、理想的な演奏を目指す。 ■前期試験:課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音作りをアンサンブルの重要な一要素として捉え、適切な機材セッティングを分析する。
【後期】 21～24回目	自身の担当楽器以外のサウンドの質を理解し、総合的なアンサンブルをイメージし演奏力の向上をはかる。
【後期】 25～27回目	タイムやダイナミクスを意識し、有機的で生き生きとした演奏を目指す。
【後期】 28～30回目	演奏クオリティを保ちながらステージングなどのパフォーマンスも意識し、聴衆に何を届けたいかを考えたライブアンサンブルを目指す。
【後期】 31～34回目	年間総合復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルとは、単純に各楽器が集まって好きに音を出し合った結果ではなく、もっと綿密で計画的に混ざり合っており、そこにダイナミクスやストーリーが存在します。自身のアンサンブルのイメージをより高め、それらをステージ上で観客に思い通りに届けるための実践方法を磨きましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ギターベーシック/ギター実習		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■ 専攻科 研究院コース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムをリリース。メディアや国内外のライブ、フェスなど多数出演。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング等、幅広いジャンルにて活動。 共演:クリス・ハート、Ms.OOJA、オリタ・ノボッタ(米米CLUB)、宮川彬良、九州交響楽団、川口千里、FREAK、HKT48 etc…						
授業概要							
ギター演奏に必要な音楽の構造理解を促し、演奏の基本となる技術習得をはかる。							
到達目標							
指板上の音程 /チューニング/音符・休符の種類 /記号の名称/インターバル(Interval)/ローコード/コード・フォームの仕組み/コードフォームと度数関係 コードの構成音/構成音を単音で弾いてみよう/ディミニッシュ・セブントとオーギュメント/調性について/各 Key の調号/平行調と同主調/スリー・コードを覚えよう コード機能 /ダイアトニック・コードと機能一覧 /ケーデンス /ドミナント・モーション /代理コード /クリシェとベダル・ポイント/スケール理解/ メジャー・スケール/ナチュラル・マイナー・スケール/ハーモニック・マイナー・スケール /メロディック・マイナー・スケール /ペンタトニック・スケール 運指練習/フレーズ練習/リズム・トレーニングなどAtoZで初歩から応用まで「ギター」理解。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ギターという楽器の特性理解。コード譜を見て曲を追うトレーニング。指板中の音を覚える フィジカルの基礎練習
【前期】 4～7回目	譜面の見方、音符や休符理解促進。バックিং/カッティングスタイルを把握し、リズムについての基礎・また練習のやり方を学ぼう
【前期】 8～10回目	コード理論の把握し、それらを応用してコードフォームや進行を覚える。
【前期】 11～13回目	コード譜を見て実際にコードを弾いてみよう・また右手のストロークの基本を学ぼう1 コード譜を見て実際にコードを弾いてみよう・また右手のストロークの基本を学ぼう2
【前期】 14～17回目	ブルースのコード進行でセッション出来るようにしよう・ペントニックについて1 ブルースのコード進行でセッション出来るようにしよう・ペントニックについて2 ■前期試験:基礎理論の把握/技術習得
【後期】 18～20回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスイングについて1
【後期】 21～24回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスイングについて2
【後期】 25～27回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスイングについて3
【後期】 28～30回目	ハーフタイムシャッフル・スウィングといったリズムについて1
【後期】 31～34回目	ハーフタイムシャッフル・スウィングといったリズムについて2 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ギターという楽器の特徴を理解、またベーシックな知識や技能は演奏する上での土台になります。知識理解と技能習得を着実に 行っていきましょう。
備考	参考図書「Guitar Basic1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムギターバックギンク/カッティング		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■専攻科 研究院コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	テレビCM「ビブレ」音源制作 ・LA☆CAPE「暗黙の了解」/作曲 また演奏においてはマイク・スターン、マーカス・ミラー、ポール・ジャクソンなど、世界で活躍するアーティストとも共演。				

授業概要
基本的なコードの形から複雑なテンションコード、様々なスタイルのストローク、理論も交えながらコードの基本を学ぶ。
到達目標
・リズム良くコード進行が弾けるようになる。 ・コード理論を理解する。 ・楽曲においてコード演奏が出来るようになる。 ・楽曲のアレンジ等にコードを利用する。 ・コードの成り立ちを理解することにより、キーの理解、作曲等に応用する。

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	オープンコードの理解
【前期】 4～7回目	パワーコード、バレーコードの実奏
【前期】 8～10回目	コード理論、様々なコード進行の理解
【前期】 11～13回目	ブルース進行の運用
【前期】 14～17回目	・トライアドの理解 ・四和音の理解 ■前期試験:課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	フレットの理解
【後期】 21～24回目	テンションコードの学習1
【後期】 25～27回目	テンションコードの学習2
【後期】 28～30回目	4弦ベースコードの学習1
【後期】 31～34回目	4弦ベースコードの学習2 ■後期試験:課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードフォーム/コード進行の演奏」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コードをしっかり弾けることはとても大切なことです。ギタリストはソロに注目しがちですが、演奏のほとんどはコードを弾くことです。理論や複雑なコードを学んでいくにつれ、多彩なバックギンクが弾けるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シングルストリングス&スケール		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■専攻科 研究院コース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・奥本亮、清水麻八子等、アーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・流星群少女、茜つばき、初めてガールズ！、トキヲキル等、アーティストのレコーディング時のバックアップミュージシャン その他、ギターに関する教則本やDVDを数多く手掛ける。					
授業概要						
スケールを理論面、そして演奏技術面から学び、様々な音楽スタイルでのリード演奏、メロディー作り、インプロヴィゼーションの方法論を学ぶ。						
到達目標						
・スケールを理論的に把握し、コードおよびコード進行との関係を理解する。						
・リードプレイに関わる演奏技術を習得し、あらゆる音楽スタイルでの演奏を可能にする。						
・ダイアトニックを中心に構成された音楽上でスケールや演奏法を自身で選択し、ミュージカルに演奏できる。						
・ある演奏内容に対して、最善の演奏法を自身で分析出来る。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	メジャーペンタ&メジャースケール [#1、#3] マイナーペンタ&ナチュラルマイナースケール[#2 & #4] の修得
【前期】 4～7回目	スケールの学習方法とトレーニングアイディア、メジャー&マイナー・トライアドの基礎ポジション修得
【前期】 8～10回目	スケールとアルペジオを融合させる考え方と奏法の学習、コード進行を考慮したインプロヴィゼーション
【前期】 11～13回目	メジャー系#2、#4、#5とマイナー系#1、#3、#5の5ポジションを修得
【前期】 14～17回目	ブルース・ナリティの基礎学習、前期まとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ブルーススケールとその発展系スケールの学習、ドリアンスケールに関する学習
【後期】 21～24回目	ミクソリディアンスケールに関する学習、 ドリアン・ミクソリディアン・ペンタトニック系を融合させた演奏法の学習
【後期】 25～27回目	フリジアンスケールに関する学習、 ロクリアンスケールに関する学習
【後期】 28～30回目	各スケール理解度のチェック、使用法の熟成、スケールにまつわるオプショナルな知識
【後期】 31～34回目	総合復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	私たちが夢になっている音楽、その中でもとりわけメロディーなどを生み出すもとになっているスケール理論を学ぶということは非常に重要かつ有意義です。「なぜこのメロディーに感動するのか?」「なぜこれを聞くと悲しい気持ちになるのか?」「このメロディーはどのようにして生まれたのか?」これらの疑問を解決し理解する手掛かりになるでしょう。またギターテクニックの飛躍的な向上はもちろん、効率的で生産的な練習法も学べます。
備考	使用教科書「Single Strings 1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プレイング実習		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■ 専攻科 研究院コース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	ギタリストとしてメジャー、インディーズ、アイドル等 様々なジャンルのレコーディングやライブへ参加。 Mega Shinnosuke, 平山カンタロウ, LinQ, 浅野孝巳(ゴダイゴ), 岩佐一成 etc... 自身の作曲した楽曲が全国区オーディションイベントにてグランプリを受賞。 その他楽曲もTV番組テーマソングや映画挿入歌に起用される。						
授業概要							
学生自身の選択した課題曲を使い、個人の目指す方向性に特化したスキルアップを目指す。							
到達目標							
・目指すミュージシャン像の確立							
・ギタリストとしての個性確立							
・自身の苦手とするテクニックの習得							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・ヒアリング ・課題提案 ・実技実習
【前期】 4～7回目	・実技実習 ・課題提案②
【前期】 8～10回目	・実技実習 まとめ
【前期】 11～13回目	テストレビュー/前期テスト/まとめ
【前期】 14～17回目	前期まとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「再現度 / 暗譜 / 演奏力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	・ヒアリング ・課題提案③ ・実技実習
【後期】 21～24回目	・実技実習 ・課題提案④
【後期】 25～27回目	・実技実習 ・課題提案⑤ /後期まとめ
【後期】 28～30回目	テストレビュー/後期テストコードリーディング
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏や楽譜の読み書きにより「読譜 / 記譜 / 演奏力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「読譜 / 記譜 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ギタリストは耳と感性を鍛えることが何より重要です。 TAB譜や譜面上の音符のみでは表現しきれない部分をアウトプット出来る様になると演奏や活躍の場はどんどん広がっていきます。 当授業では、楽譜基礎の基礎からギターと紐付けて学んでいき、暗譜・聴音・演奏が出来る様に練習していきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー & イヤートレーニング		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 専攻科 研究院コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムをリリース。メディアや国内外のライブ、フェスなど多数出演。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング等、幅広いジャンルにて活動。 共演:クリス・ハート、Ms.OOJA、オリタ・ノボッタ(米米CLUB)、宮川彬良、九州交響楽団、川口千里、FREAK、HKT48 etc…				
授業概要					
一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。また正確に楽譜を読み書きする能力と作曲の為の基礎知識を養います。					
到達目標					
様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。 また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。 世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 4～7回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 8～10回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 11～13回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 14～17回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 21～24回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 25～27回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 28～30回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 31～34回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われるがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	